



札幌市立中央幼稚園

研究だより No. 7

＜今年度の研究の重点＞

令和6年2月28日 発行

『遊びや生活を通した学びや、

一人一人の幼児の育ちを家庭と一緒に考えていくために』



中央幼稚園では、子どもたちの園での遊びの様子から、「子どものいいね！」（**幼児の内面の育ち**）や、「大人のいいね！」（**育ちにつながった援助や環境の構成**）について職員で話し合い保育の質の向上を目指しています。今回は＜**豊かな感性と表現ごっこ遊びの場面から「いいね！」を見付けました。ご家庭での関わりの参考にしてみてください。**

3歳「ぼくもお店屋さんになる！」

周りの遊びに目が向く時期

いらっしゃいませ！

私もお店屋さん
やってみたい！

どうぞ！

（周りの子にも聞こえる
よう大きな声で）**お
店屋さんです
か？これをくだ
さい！**

ぼくは、ピザ屋
さんをしたい！

メニューも
作ろう！

4歳「友達と“にゃあ”と言ひ合うのが楽しい！」

友達と同じイメージで遊ぶことが楽しくなる時期

お散歩に行
くにゃあ！

私も行く
にゃあ！

にゃん にゃん
にゃ〜ん にゃ
にゃん にゃん
にゃん（猫語で
おちゃらか）

いってらっしゃいにゃあ！
猫ごはん作って待っている
にゃあ！

5歳「パウパトってこうだよね！？」

イメージを共有し、見通しをもって工夫しながら遊びを進められる時期

事件が起きないね！先生、事件
を起こしてくれない？

（他の遊びをしている子どもに向か
って）パウパトたちが事件
が無くて困っているみた
いだよ！

これに挟まったってことにするわ！

ケガをした時のために絆創膏と包帯も
作ろう！どんな材料で作ろうかな？

子どものいいね！

○友達の遊びに刺激を受け、「おもしろそう」「楽しそう」と思ったこ
とに躊躇せず取り組もうとする姿がいいね！

○自分なりの発想を形にしようとしている姿がいいね！
（「ぼくは〇〇を作ってみよう」「メニュー表も作ってみよう」など）

○“いつもの自分”ではなく、
“猫”として友達と楽しんでいる姿がいいね！
・自分の思いを「にゃあ」という言葉にのせて伝えようとする姿
・友達と猫になり切って過ごしている姿
（猫でお散歩、爪とぎ、チュールを食べる、こたつで丸くなるなど）

○遊びをおもしろくしようと
工夫している姿がいいね！
・遊びを変化させようとする姿
・見通しをもって、必要な物などを自分たちで用意する姿
○友達とイメージを共有したり、役割分担したりしながら遊ぶ姿がいいね！
・「〇〇ってことにしよう！」などとアイデアを出し合う姿

大人のいいね！

○周りに目が向く、見合える環境作りがいいね！
・お店屋さんという分かりやすい遊びの環境
・保育室内、保育室前など子どもの目に入る場所に遊びの場
・教師がお客さんになって、他の友達を巻き込む援助
○自分の発想を楽しめる援助がいいね！
・「〇〇を作りましょう」ではなく、子どもの「〇〇を作りたい」
という思いに寄り添った関わり

○安心して思いを出せる場を作った援助がいいね！
・子どもたちと一緒に猫グッズを作ることで、その場が猫たちの集
いの場、安心の場に！（猫グッズの例：猫が寝る部屋、猫時計、
こたつなど）
○教師の意図を押し付け過ぎず、子どもがやりたいことに寄り添った
関わりがいいね！
・状況に応じてアイテムを出し過ぎず、少な過ぎず出していく援助。
・猫の世界を子どもなりの表現（「にゃあ」の言い合い）で、楽しん
でいる姿を受け止め、一緒に楽しむ。

○子どもが自信をもって遊び込めるような関わりがいいね！
・子どもが必要を感じた時を見逃さず、必要な材料を適切なタイミング
で提示する
・子どもを信頼し、任せる
（年中は「教師と一緒に環境を作るのがいいね！」だが、年長では教師
が見守りながら必要な時に手助けするのがいいね！）
・色々な友達とのつながりを楽しんだり、刺激をし合ったりできる援助。



幼児期における豊かな感性と表現とは？～こんな姿が育ってほしい！～

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。(幼稚園教育において育みたい資質・能力の及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」より)

私もお店屋さん
やってみたい！



**心動かす出来事に触れ、
イメージを豊かにする**

**自分の気持ちを動きや
音、演じるなどして自分
なりに表す喜びを味わう**

猫だにゃあ！



怪我をした時のため
に絆創膏も作ろう！



どんな材料が
いいかな？

**共通の目的に向けて友達と
考えを出し合い、工夫して表
現することを楽しむ**

これに挟まった
ってことね！



幼児期に育まれた豊かな感性と表現は 小学校生活でのこんな姿につながります！

- ・自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶ姿
- ・臆することなく自信をもって表現する姿

これらの姿は、小学校生活を意欲的に進める基盤、学習全般の素地になっていきます。

合同研修会(講演会) 研究アドバイザー 川田先生を迎えて

本園の研究を深めるにあたって研究パートナー園のいわ幼稚園と合同研修会(年2回)行っています。研究アドバイザーの北海道大学大学院附属子ども発達臨床センター准教授 川田学先生に研究のアドバイスを頂いたり、お話を聞いたりする機会を設けていました。秋の合同研修会では川田先生が視察されたニュージーランドの保育についてお話を聞くことができました。



ニュージーランドの保育について

- テ・ファークキ(マオリ語の織物の意)という国家カリキュラムとラーニングストーリーという実践記録、保育における評価・アセスメントについてのシステムが有名である。
- 就学前の保育、教育施設の多様性も特徴であり、保育園と幼稚園以外にも保護者が運営するプレイセンターやプレイグループ、マオリのためのコハンガレオ(ことばの家)、サモアなどの南太平洋諸島の諸民族のための施設、遠隔地のための園外保育などすべてがテ・ファークキに基づいている。
- ニュージーランドでは5歳から小学校に行ける。5歳の誕生日で入学してもいいし、なくてもよい。5歳は0年生になる。0年生の基本は遊びになる。読み書きは一人一人の理解度に合わせて3名くらいで行う。一斉指導ではない。日本に比べて、1施設の子どもの人数が少ない。
- 保護者が運営するプレイセンター、プレイグループは400～500施設ある。複数の家族がテ・ファークキ沿って運営している。幼児教育の担い手として親の存在が大きい。

Q:1年生に入学してから学力の差はないのか？

A:一斉授業が基本的でない。日本の学校のような一斉授業(スクール形式)は世界では少数派なので、みんなのペースに対して自分が遅れるという考えがない。



アンケートご協力をお願い

研究だよりを読んだ感想やご意見等をアンケート用紙に記入して頂き、玄関ポストに投函していただけますと幸いです。ご協力よろしくお願い致します。

<前回のアンケート内容を一部紹介させていただきます>

自分の気持ちを調整したり、折り合いを付けたりしようとする気持ちを育てるために家庭で工夫されていること

- ・子どもが今感じていることを否定せず、共感する。
- ・思い通りにならないことを泣いてわめいたりして要求を通そうとすることがあるが、大人が一度「ダメ」、「約束」と言ったことは泣いても許さないようにしている。
- ・悲しかった、楽しかったなどの気持ちに共感した後、他の提案をするとうまくいくことが多い。
- ・親の都合優先にならないように気を付けながら、理由を説明し、分かってもらえたら嬉しいと一旦伝える。
- ・選択肢を提示して、どうするか自分で選ばせるようにしている。
- ・時々、「ここはお母さんもゆずれないな」とあえて頑固になってみます。
- ・兄弟喧嘩でつい仲裁してしまうこともあるが、「みんながいい気持ちになるように話し合ってね」と言って本人たちに考えさせるようにすると、親が仲裁するよりも子どもたちが納得できている。